

ビデオレンタル事業の大きな変化

ビデオレンタルは、VTRの登場と共に1970年代末にスタートし、事業形態に大きな変化はなかった。しかし、ここ数年で非常に大きな変化が起きている。ビデオレンタル業界で2位と3位のHollywood VideoとMovie Galleryは2005年に合併をしたが、昨年に倒産をした。残る大手レンタルチェーンのBlockbusterは現在、会社更生を受けており、自らを売りに出している。

キオスクが店舗を上回る

変化を作り出したのはNetflixとRedboxである。

Netflixは1997年に設立された会社で、受注にウェブを使い、ディスクを郵便で配送している。Netflixは、1枚が一泊いくらの方法ではなく、会員制のサブスクリプションモデルを持ち込んで成功をしていった。Netflixは2,000万人以上の会員を持っている。

Redboxは2003年にスタートし、キオスク（自動レンタル機）を使ったレンタル事業者で、スーパーマーケット、ファーストフードレストランなどの人が集まる場所に、（その名の通りの）真っ赤な自動レンタル機を設置し、一泊\$1の低料金で、成功をしている。同社は200タイトル、700枚のディスク容量を持つキオスクを全米に3万以上設置している。

調査会社のNPG Groupが発表したデータによると、2010年第3四半期にはキオスクで貸し出されたディスクの枚数が、店舗のレンタル枚数を初めて上回った。レンタル枚数が最も多かったのはNetflix、Blockbuster by Mailなどの郵便を使った方法で、全体の41%を占めた。2位はキオスクで31%、3位は店舗で27%であった。

ディスクよりストリーミング配信!?

変化はそれだけではない。多チャンネル事業者のVOD、それにインターネットを使ったストリーミングの配信により、物理媒体を使ったレンタル事業全体が陳腐化しようとしている。この動きをリードしているのもNetflixである。同社は、その会員に対して無料オプションとして、映画、TV番組を2007年からストリーミングで提供している。ストリーミング可能なビデオはライブラリーの一部で、新しいタイトルは少ないが、利用は大きく増えており、Netflixは最近、ディスクのレンタルを含まない、ストリーミングだけのサービスを月額\$7.99で開始している。同社の2010年第3四半期の発表では、会員の66%がストリーミングを試しており、上映時間で比べた場合、ストリーミングがディスクを上回り始めている。

1タイトルごとの有料のインターネットを使ったVODにはApple (iTunes)、Amazon、Blockbuster、Vuduなどが参加している。HIS Screen Digest社によると、インターネットVODの市場規模は2010年 \$1.55億で、iTunesが55%のシェアを持っている。Amazonは有料VODだけでなく、最近、年\$79のプライム会員（2日間での配達が無料）に対して、5,000以上の映画、TV番組のストリーミングを無料で開始している。また、HuluもTV番組に加え、映画も広告付きでストリーミングをしている。

配達方法の変化はほかのコンテンツ事業にも影響を与えている。音楽はビデオよりも先にそのインパクトを受けている。この次に大きな変化をみるのは雑誌、書籍業界であろう。すでに、書籍の販売は店舗からオンラインに動いているが、AmazonのKindle、それにAppleのiPadにより、デジタル化が急速に進んでいる。2010年2月には、書籍店舗としてBarnes & Nobleに続く、2位のBordersが会社更生法の適用を申請しており、最初の大きな犠牲になっている。



The Compass ニュース

NSIリサーチは、アメリカのデジタル放送とインターネットTVの動向を伝えるマンスリーレポートのThe Compassを出版しています。The Compassのサンプル購読がご希望であれば、compass@nsirinc.comに会社名、氏名を含めたEメールをお送り下さい。

